

中国・内蒙古・ホルシン沙漠を緑の草原に!!

日中友好の草の根運動

戦争残留孤児の恩返しから始まった緑の蘇生運動

私達のボランティア協会がホルシン沙漠で緑化活動を開始したのは、ひとりの戦争残留孤児女性との出会い、その行き方に共鳴したこときっかけでした。

立花さんは3歳で当時の満州に渡り、7歳で終戦を迎えましたが、混乱のさなか、避難途中ソ連軍の戦車隊に攻撃され、日本人避難民の殆どが死亡したとき、肉親と死別するという苦難を経験されました。

一人生き残った立花さん(敵国の少女)は蒙古族の養父母に育てられ、教師として草原での教育に献身、文化大革命時養父母は身

を挺して烏雲さんを守りました。

日中国交回復後、40年ぶりに徳島市の実兄に巡り会い、日本の故郷への永住帰国を勧められましたが、「私を育ててくれた養母と中国に恩返しをしたい、日中友好のかけ橋になる」と決然として大草原に還りました。その後中国の全国政治協商会委員、通遼市人民代表大会副主席、哲盟教育研究所副主任等を歴任し、定年退職後、日中友好増進のため現在庫倫旗一中学の名誉校長のかたわら植林事業に挺身しています。



烏雲先生



徳島市北井上中学校に建立した
烏雲先生自作詩の石碑

日本に一番近い沙漠・ホルシン沙漠を緑の大地に！

中国内モンゴル自治区東部に広がる面積約500ヘクタール(九州の1.2倍)のホルシン沙漠は数百年前までは草原と森林が広がる豊かな大地でしたが、過剰な開墾と放牧・伐採により急速に沙漠化し多くの人々が貧困や離村に追い込まれました。

1994年に始まった当地での緑化活動は、モデル森林農場が8箇所に加え、植林本数は主催・協力併せて1,100本となるなど広がりを見せています。



日本に一番近い沙漠「ホルシン沙漠」

2007年4月よりホルシン沙漠内の阿古拉沙漠に「徳島烏雲の森」を10年計画で緑化する事業に着手致しました、引き続き温かいご支援をお願い致します。